

参 考 手 本

芳草春を惹ひいて還る

春 芳
還 艸
惹

高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

芳草春を惹ひいて還る

高 木 聖 雨 先生



※これは規定課題ではありません。

条幅かな

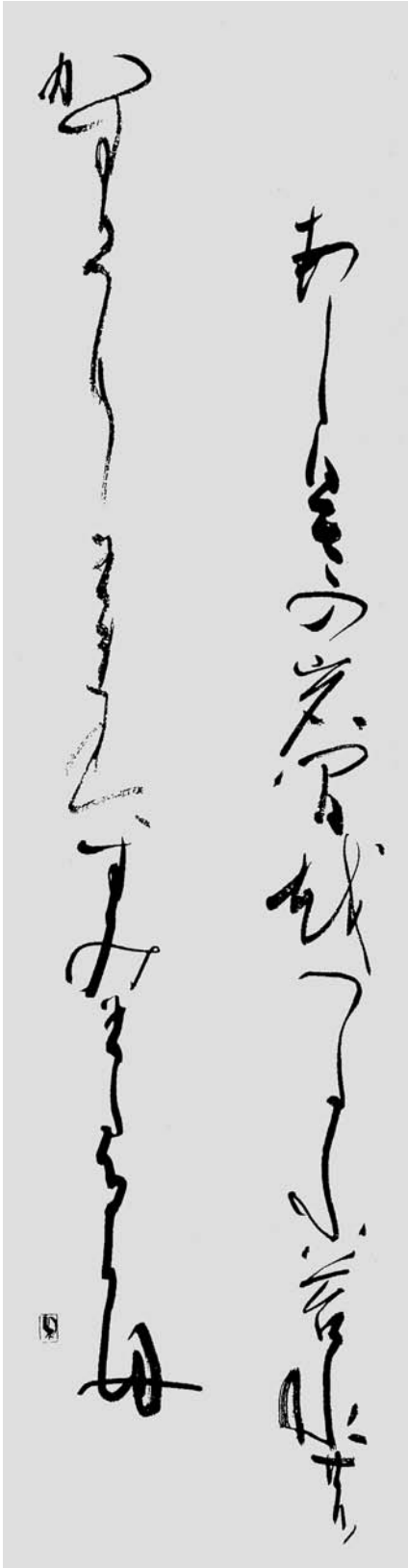
条幅規定

C部 (二段以下)

A部 (準五段以上)

B部 (四段~準三段)

あしひきの岩間をつたふ苦水のかすかにわれはすみわたるかも (良寛)



前後赤壁賦 (元・趙孟頫)

而恐懷乎其不可留也返而登舟放乎中流

浮 乘 清 郷 先 生



道因法師碑 (唐・歐陽 通)

敏為道俗所遵每設講筵畢先招遶常講維摩



条幅のバーコード出品券にはA・B・Cでは無く段・級を記入して下さい

(3月10日締切)

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)



尉曾祖父述

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

都尉たり。曾祖父述は

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

(3月10日締切)

半紙規定 (二)

九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)



史上善降祥

清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書 〔二級以下〕楷書

史を停むる無し。上善は祥を降し、

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

(3月10日締切)

本 手 考 参 幅 条

我欲乘黃鶴 飄然物外遊
 檻前懷古淚 且爲禰衡收

南嶂書

渡邊南嶂先生

我欲乘黃鶴 飄然物外遊 檻前懷古淚 且爲禰衡收
 我黃鶴に乗せんと欲して 飄然たる物外の遊 檻前懷古の涙 且つ禰衡の為に收めん

下出義山先生

梅花落已盡 柳花隨風散
 歎我當春年 無人相要喚

意山

梅花落ちて已に盡き 柳花風に隨つて散る 歎ず我れ春年に當りて 人の相要え喚ぶもの無きを

本 手 考 参 幅 条

春池深且廣 會待輕舟廻 靡靡綠萍合 垂楊掃復開
 緑萍合垂楊掃復開 劉雲

大 島 劉 雲 先 生

春池深且廣 會待輕舟廻 靡靡綠萍合 垂楊掃復開
 春池深くして且つ広し 会らず輕舟の廻るを待たん 靡靡として緑萍合し 垂楊掃いて復た開く

久 保 田 悠 山 先 生

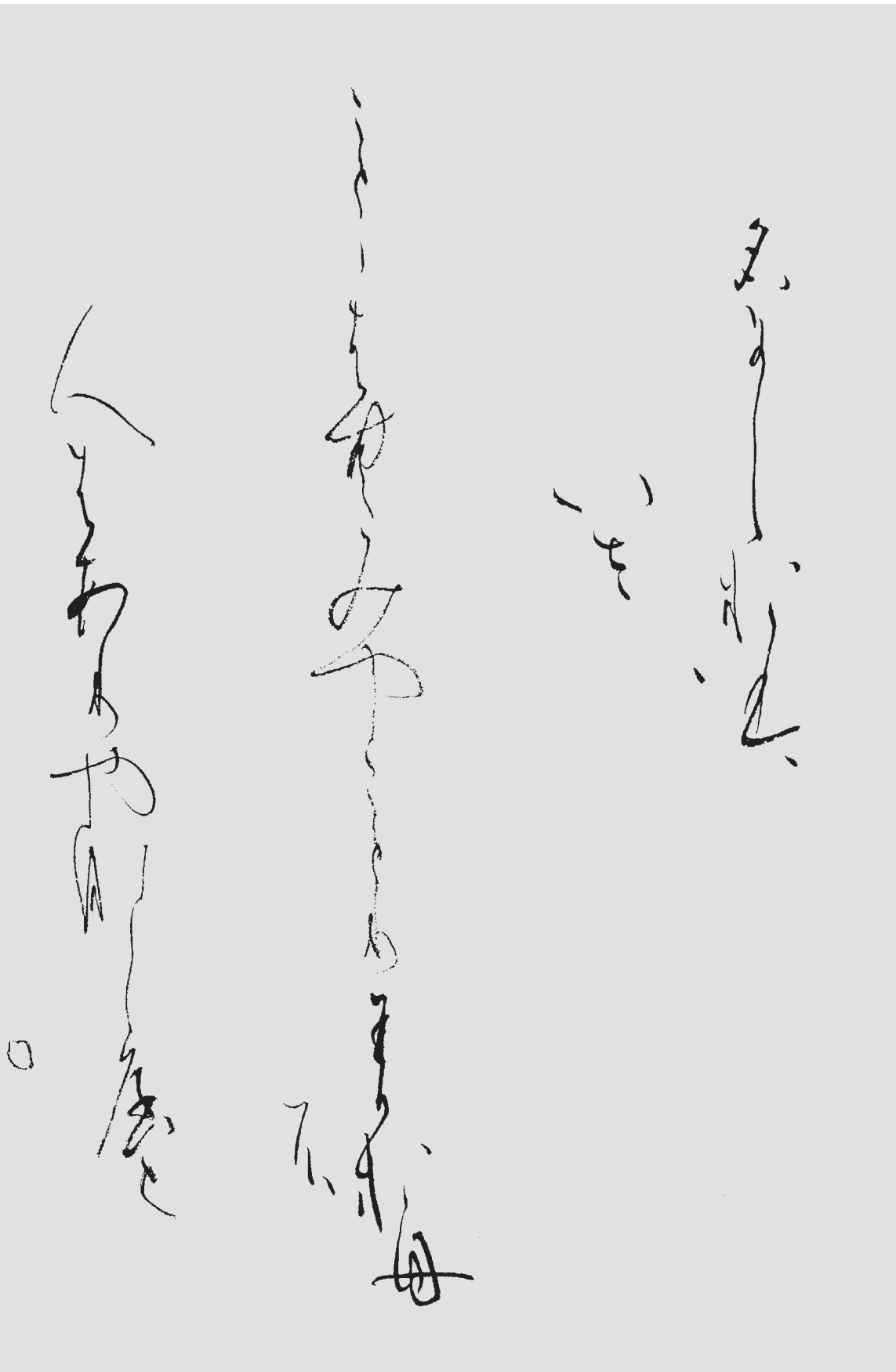
冴えわびて覺むる枕に影見れば霜深き夜の有明の月
 ば霜深き夜の有明の月 藤原俊成女

冴えわびて覺むる枕に影見れば霜深き夜の有明の月 (藤原俊成女)

半紙かな（初段以上）

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと（在原業平）

支部名 段 姓 号（鉛筆可）



※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由

浮 乘 清 郷 先 生

（3月10日締切）

半紙かな（1級～8級）

たれやらに似し雪だるま見て過ぎる
連 二耳志 多 萬 帝 流 (伊東月草)

支部名 級 姓 号 (鉛筆可)

たれやらに似し雪だるま見て過ぎる

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。
※ちらし文字変換は自由

小林智峰先生

(3月10日締切)

実用文（準三段以上）

〈書風任意〉

清朝之百年はあだかも江戸時代の
三百年と重なっておりますか、文化
面―特に書道の面を比較してみますと
江戸の沈滞にまらべて清朝はまことに絢爛
と華々としております。書の実相より

地名 如 姓 号

田 辺 玉 翠 先生

（3月10日締切）

実用文（二段以下）

〈書風任意〉

我鳥を譲り欲しいと頼んだと云ふ
道士は「お金で譲る事はできません。
先生の書かれたきんぎょと交換もし
ますか」といふと云ふで、王羲之は……
支部名 段級 姓号

朝平霞山先生

（3月10日締切）

細 字

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隸書まで。

恍^{こう} 忘^{ぼう}

惚^{こつ} 我^が

自分を忘れてしまう。
うっとりすること。

溢^{いっ}

堂^{どう}

会場にあふれる。

名前は必ず楷書 17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

支 部

段

姓

号

感激忘我恍惚聽衆溢堂
 感激忘我恍惚聽衆溢堂
 感激忘我恍惚聽衆溢堂
 感激忘我恍惚聽衆溢堂

硬筆（初段以上）

余寒のお見舞い申し上げます

暦の上では立春を迎えましたが、厳しい

寒さがなお残ります。本当の春は、まだ

遠く、くれぐれもご自愛下さいますよう

お祈り申し上げます。寒さのお見舞いませう。

支那名

氏

姓号

青柳江雲先生

本院定型用紙一枚に書く

（3月10日締切）

硬筆（4級以下）

硬筆（1級～3級）

本院定型用紙・たて半分に書く

長い歴史の中で生き続けてきた伝統
 芸能には、人の心を動かす力がある。

支部名 級 姓 号

齊藤 翡翠 流 先生

長い歴史の中で生き続けてきた伝統
 芸能には、人の心を動かす力がある。

支部名 級 姓 号

齊藤 翡翠 流 先生

(3月10日締切)

中2用

支部名
 段級
 名
 前

書日物
 日取古
 の

田邊玉翠先生

中3用

支部名
 段級
 名
 前

相進
 談路
 の

田邊玉翠先生

(3月10日締切)

小6用

支部名

段級

名

前

足春
音の

朝平霞山先生

中1用

支部名

段級

名

前

の名残り
雪

田邊玉翠先生

(3月10日締切)

小4用



小5用

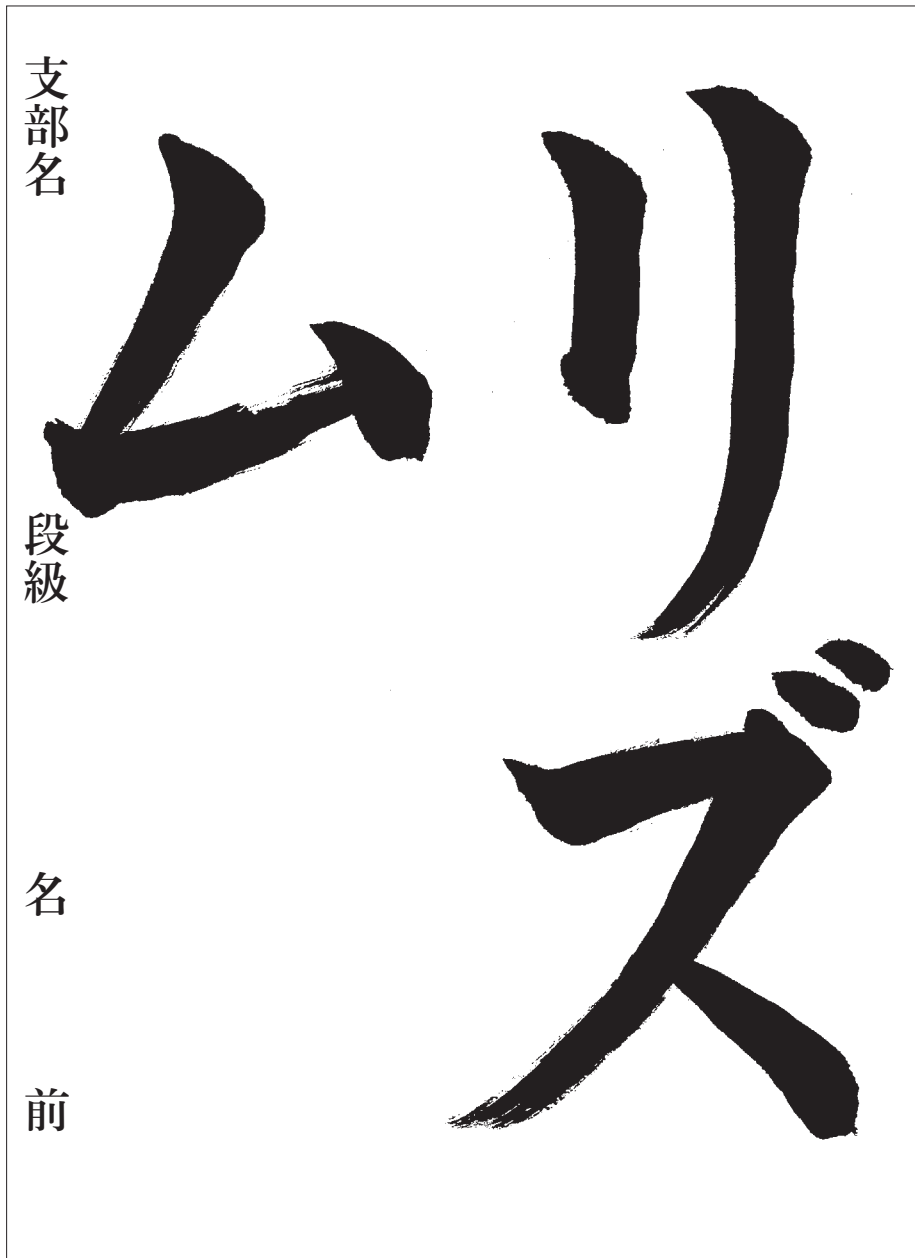


朝平霞山先生

朝平霞山先生

(3月10日締切)

小2用



支部名

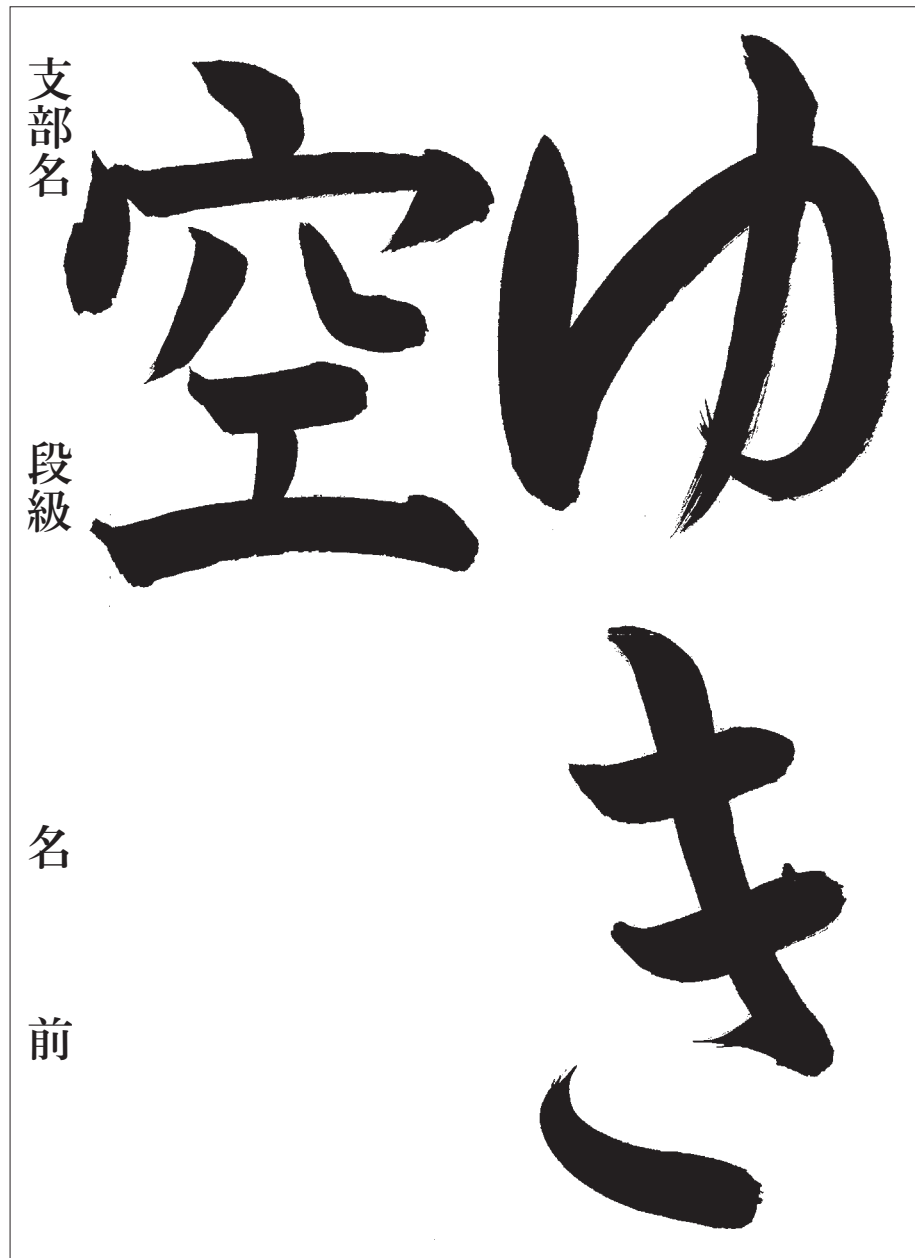
段級

名

前

主幹 菅野翠濤

小3用



支部名

段級

名

前

主幹 菅野翠濤

(3月10日締切)

中 1

三寒四温の頃、一雨ごとに春めいて来る。

中 2

人は経験をし、難しさに挑戦し、進歩する。

中 3

時に応じ、正しく判断し行動する姿勢を養う。

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

礼あ

中1～中3

青柳江雲先生

(3月10日締切)

小1・幼年

がおおぞらに、たこがあ
がっていきます。

小1～小3

小 2

かえるや、びは、ま
だ土の中にいます。

若 月 久美子

小 3

春に入ってもまだ風は
ひんやりとつめたい。

先 生

小 4

春には、野にも山にも
木のめが出てくる。

小4～小6

小 5

寒くても、まどを開け
空気を入れかえよう。

齊 藤 翡 流

小 6

勉強は、自分からやる
うとする意志が大切。

先 生

(3月10日締切)

小学部小筆課題

中学部かな課題

支部名

段級

名

前

雪どけ

春近し

主幹 菅野翠濤

季語「雪」

病床の作者が何度もく雪への関心を示す。自分で見ることできぬその姿が
あわれ深く出ている。淡々とした表現の中に深い情味があふれている句。

船久保 棠苑 先生

支部名

段級

名

前

雪の深さをたづね

けり

いふまじも

(3月10日締切)